４．地域の抱える課題と対応

４－１．駅・駅周辺の安全性・快適性の向上

課題１
駅

駅舎(JR 御茶ノ水駅/東京ﾒﾄﾛ新御茶ノ水駅など)、駅前広場、茗渓通りと沿道、神田川等

多くの乗降客で混雑する駅舎を改良することとあわせて、段階的に、駅前広場や交差点や歩道の混雑の解消、バス・タクシー等の円滑な乗降のための空間創出などを進める。

あわせて、地域の回遊の拠点（ゲートコアの中心）として、神田川の景観・眺望を活かした街並みの形成や、機能の充実を図る。

４－２．歩行者空間の充実

課題２
歩

オープンスペース、歩行空間

これまで十分に活かされてこなかった公開空地を活用し、相互に連携する歩行空間の充実を図る。さらに、建物の機能更新などによってオープンスペース・歩行空間の創出を誘導し、ゆとりと賑わい・地域交流の場としての空間の確保・整備を進める。

４－３．駐車・駐輪対策

課題３
駐

路上駐車・パーキングメーター、路外駐車場、路上駐輪・バイク、路上看板

駅付近に違法駐車が多く、歩道のない、あるいは狭い道路に多く存在する路上駐車などを解消するため、開発にあわせた路外駐車場の確保と利用促進、パーキングメーターの解消などを通じて、ゆとりある歩行空間を確保し、まち歩きを楽しめる街並みの形成を進める。

４－４．バリアフリー化の推進

課題４
ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰ

バリアフリー化の推進とユニバーサルデザインの導入

バリアフリー化が遅れている公共交通機関・道路（特定経路）・建築物（教育、医療、保険、大規模施設など）のバリアフリー化を個々に進める。さらに、その進捗にあわせて、主な回遊ルートを始め、区域全体にバリアフリー歩行空間のネットワーク化・ユニバーサルデザインの導入を広げる。

４－５．環境への配慮

課題５
環

地球温暖化・ヒートアイランド対策

業務ビル・アスファルト等の人工被覆面からの熱付加、建物の廃熱が大きく、昼夜ともに気温が高い本地域では、開発・機能更新・基盤整備にあわせて、環境への負荷の低減に資する環境配慮型の建築・開発事業の推進を誘導するとともに、地域の多様な連携等によって、環境配慮型の事業活動を促す。また、あわせて緑化・保水性舗装など潤いある市街地環境の形成も図る。

４－６．防災まちづくり

課題６
防

大規模地震災害、施設・組織・拠点の連携と協力

大手町・丸の内・有楽町、永田町・霞ヶ関等に次いで昼間人口密度が高い本地域では、建物の耐震性向上とともに、帰宅困難者への対応を含め、アーバンキャンパスコアにおける緊急・災害時の拠点形成、地域の防災活動の強化、企業の社会的責任（CSR）に基づく地域貢献など、総合的に防災対策を進める。

４－７．風格とうるおいのある街並み形成

課題７
景

みどり豊かな街路、景観資源

かえで通り、とちの木通りなど文教のまちらしい緑豊かなまちの特性を活かしながら、東西方向や明大通り・お茶の水仲通り（キャンパスタウン軸）において、趣や落ち着きのある街並み、街路樹など緑の連続性、ゆとりと賑わい、まち歩きを楽しませる街並みとしかけなどによって、通りごとの特性を活かしたバランスの取れた街並みを形成する。

また、十分に活かされてこなかった神田川の空間や歴史的・文化的な資源を街並み形成に活かし、点から線、面へと広げていく。

４－８．居住の推進

課題８
住

多様な居住、生活の利便性

昼間人口に比べて、区内でも夜間人口の少ない本地域では、都心における多様な居住の推進に資するよう、地域の特性である教育・医療機関の集積を活かした居住の推進を進める。また、居住の推進にあわせて、多くの来街者が鉄道を利用して訪れる魅力を活かして生活利便性を高めるサービスが提供されるよう誘導を図り、周辺市街地の居住性向上にも貢献する。

課題１ 駅

駅舎（JR 御茶ノ水駅/東京メトロ新御茶ノ水駅など）、駅前広場、茗渓通りと沿道、神田川等

● 現状と問題点 ●

①駅舎及び駅前広場・・・・・・・・・・・・・・・

◇多くの乗降客で混雑する駅舎
◇バリアフリー化が進んでいない駅及び周辺
◇狭小な駅前広場、交差点や歩道の混雑
◇バス・タクシー乗場による歩道幅員の減少

＜御茶ノ水橋口バス停＞

＜御茶ノ水橋＞

＜JR 御茶ノ水駅＞

＜御茶ノ水橋口駅前広場＞

＜聖橋口＞

＜聖橋口付近のタクシーの列＞

※いずれも、平日・午前８時頃

②茗渓通りと沿道、神田川等・・・・・・・・・・・

◇自動車の入り込みが多く、歩行者中心となっていない道路
◇来街者の回遊の起点としての機能の不足（地域の情報発信・案内機能、地域の生活利便性を向上させる機能、駅や駅周辺と一体的に賑わいを創出する仕掛け　など）
◇神田川（風致地区）等が意識されていない街並み
◇機能更新の時期を迎えている一団の建物

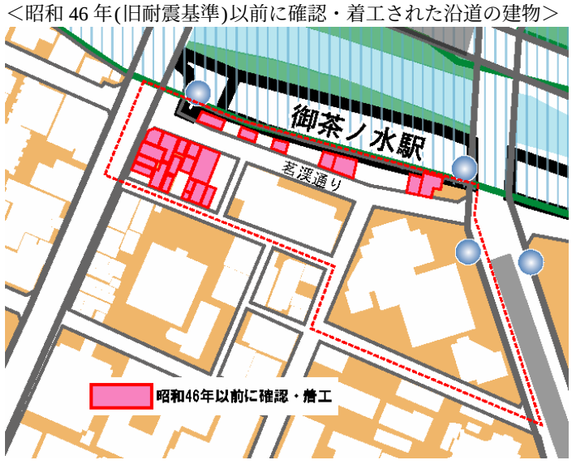
＜茗渓通り＞

＜JR 御茶ノ水駅と茗渓通り沿道の建物＞

＜御茶ノ水橋→聖橋＞

＜聖橋→御茶ノ水橋＞

＜昭和 46 年(旧耐震基準)以前に確認・着工された沿道の建物＞



JR 御茶ノ水駅に関しては、従来から、
◇地形的条件により、軌道・ホームの曲線が強い
◇ホームに一部段差がある
◇エレベーター・エスカレーターの設置等のバリアフリー化が進んでいない
◇歩行空間を含む駅前広場がない

などのため、多くの乗降客でホーム、駅前広場、交差点や歩道が混雑するなど安全性の面での問題が多く指摘されていた。また、バス・タクシー用の空間を路上に設けざるを得ないため、円滑な乗降に支障をきたしたり、乗場による歩道幅員の減少などの問題も見られる。

本構想では、こうした課題認識のもとに、交通バリアフリー法（H12.5 制定）によって平成 22 年までに駅のバリアフリー化を行う必要性、日本大学・明治大学のキャンパス整備などの大規模な開発動向をふまえて、駅改良及び駅周辺の整備の方向性（整備のイメージ）を示している。

＜整備の方向性＞

●人工地盤による上部空間の活用

JR 御茶ノ水駅及び軌道は、神田川沿いの限られたスペースに設けられており、拡幅の余地が極めて少ない。加えて、景観上・歴史上貴重な資源である聖橋や、お茶の水橋の橋脚の間を軌道が通るため、ホームの拡幅に際しても、この部分の拡幅が困難なため大きな制約となっている。

また、有効なホーム拡幅が困難な状況を前提とすると、混雑時の安全性を確保するためには、ホームからコンコースへできるだけ早く、円滑に移動できる動線を確保する必要がある。そのため、駅舎のバリアフリー化とともに、人工地盤を設けてホーム上部に新たな空間を設け、駅構内をゆとりをもって移動できる環境を確保することが有効と考えられる。

●聖橋、神田川への配慮

JR 御茶ノ水駅は、風致地区・都市計画緑地の区域内にあり、改良にあたっては制限を受けるが、このほか、都心部においてうるおいある眺望をつくる神田川の河川区域（東京都の水辺再生への取組みなど）や、聖橋の景観・歴史資源としての重要性を考慮しながら、駅改良・駅周辺整備を進めていく必要がある。

●段階的な駅周辺整備

交通バリアフリー法にもとづく駅舎のバリアフリー化は、平成 22 年という期限が設けられており、かつ、利用者の安全性に関わる問題であることから、緊急の対応が求められている。

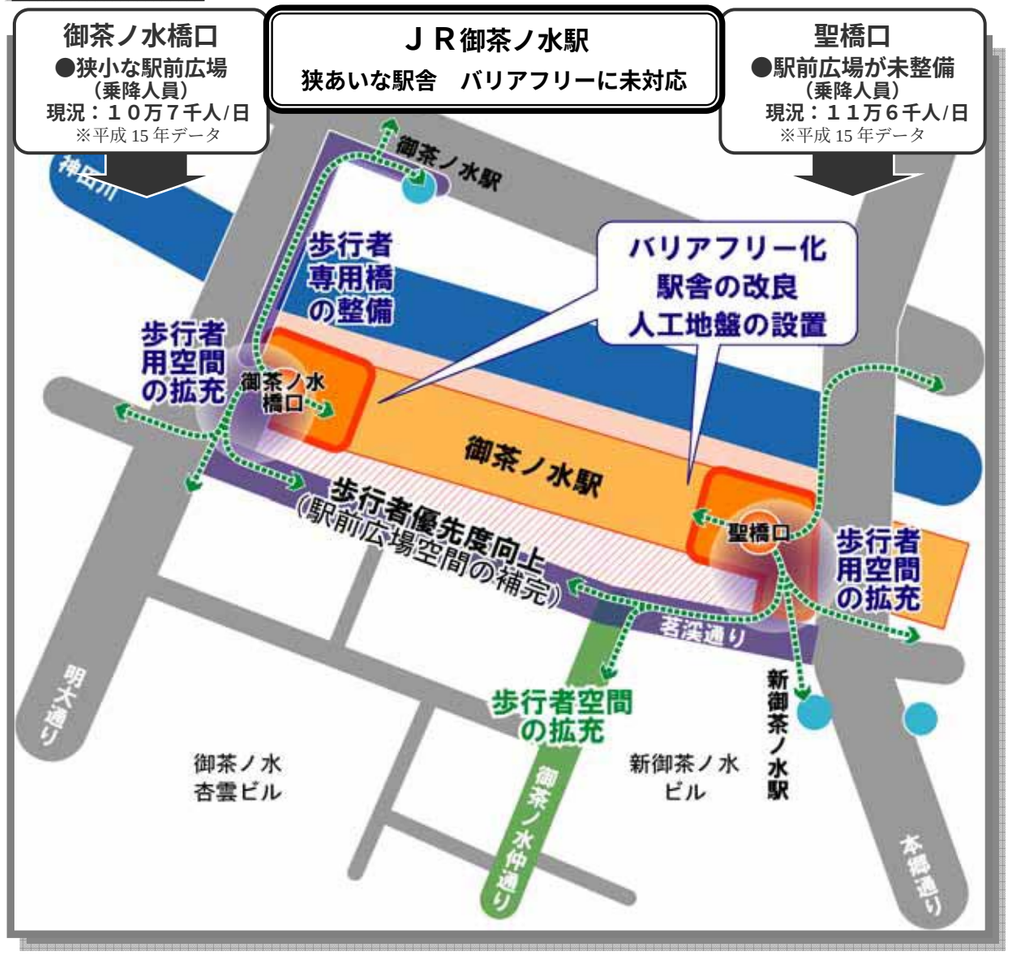
また、JR 御茶ノ水駅及び周辺では、神田駿河台だけでなく、周辺地域を含めた回遊の拠点（ゲートコアの中心）として、様々な機能や駅前広場などゆとりある空間の充実を図るため、周辺の開発動向の進捗にあわせて、各事業主体との連携のもと、駅舎の改良・駅周辺整備を進めることが求められる。

そのため、駅舎の改良・駅周辺整備にあたっては、まず、限られたスペースのなかで、駅及び駅周辺の歩行者空間の充実を図る。

バス・タクシー用空間は、周辺の開発動向の進捗に合わせて確保を図るものとし、段階的に整備を進めていく。

●　駅・駅周辺の整備イメージ　●

ステップ①　駅のバリアフリー化と駅前歩行者空間の拡充



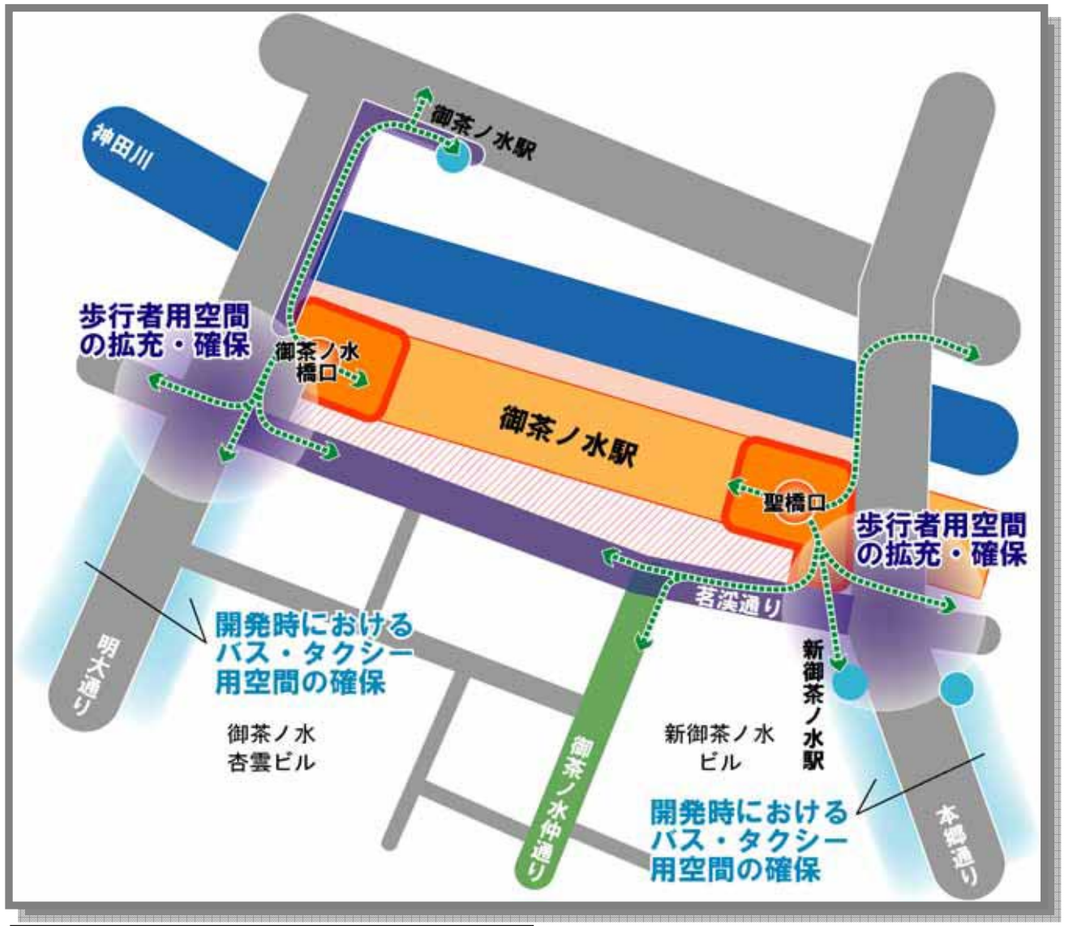
①JR 御茶ノ水駅の整備
　１）御茶ノ水駅のバリアフリー化
　２）駅舎の改良、人工地盤の設置
②聖橋口周辺の整備
　１）ゆとりある駅前広場空間の創出
　　→茗渓通りの歩行者優先化にあわせ、人工地盤を活用し、駅前広場空間（歩行者用空間）を拡充
③お茶の水橋口周辺の整備
　１）ゆとりある駅前広場空間の拡充
　　→茗渓通りの歩行者優先化にあわせ、人工地盤を活用し、駅前広場空間（歩行者用空間）を拡充
　２）お茶の水橋歩行者専用橋の整備
　　→お茶の水橋上の歩行者の安全確保
　　→文京区側の医療施設、東京メトロ丸の内線利用者の利便性向上を図る

④茗渓通りの整備
　１）駅前広場と一体となった歩行者空間の確保（駅前広場空間を補完）
　　→自動車通行を制限し、歩行者優先化
　　・地域の交通計画の見直し
　　・路線バスのルート変更
　　・荷捌き車両、緊急車両等の処理
　　→電線類の地中化
⑤御茶ノ水仲通り歩行者空間の拡充

↓

期待される整備効果
◇駅構内のバリアフリールート
◇改良し、スペースが広がった駅舎
◇駅前広場（歩行者用空間）
◇ＪＲと東京メトロの駅をつなぐ歩行者専用橋
◇茗渓通り・お茶の水仲通りのゆとりある歩行空間

ステップ②　開発時におけるバス・タクシー用空間の確保



①開発時におけるバス・タクシー用空間の確保

②開発時における交差点付近の歩行者用空間の確保

↓

期待される整備効果
◇駅付近でのバス・タクシーの円滑な乗降
◇交差点における歩行者の滞留の解消

※茗渓通りについては、駅前歩行者空間の拡充に向けて一体的整備の可能性を探る

課題２
歩

オープンスペース、歩行空間

●　現状と問題点　●

①オープンスペース・・・

課題３
駐

路上駐車・パーキングメーター、路外駐車場、路上駐輪・バイク、路上看板

●　現状と問題点　●

①路上駐車・パーキングメーター・・・

課題４ バリアフリー

バリアフリー化の推進とユニバーサルデザインの導入

● 現状と問題点 ●

①バリアフリー化・・・

課題５
環

地球温暖化・ヒートアイランド対策

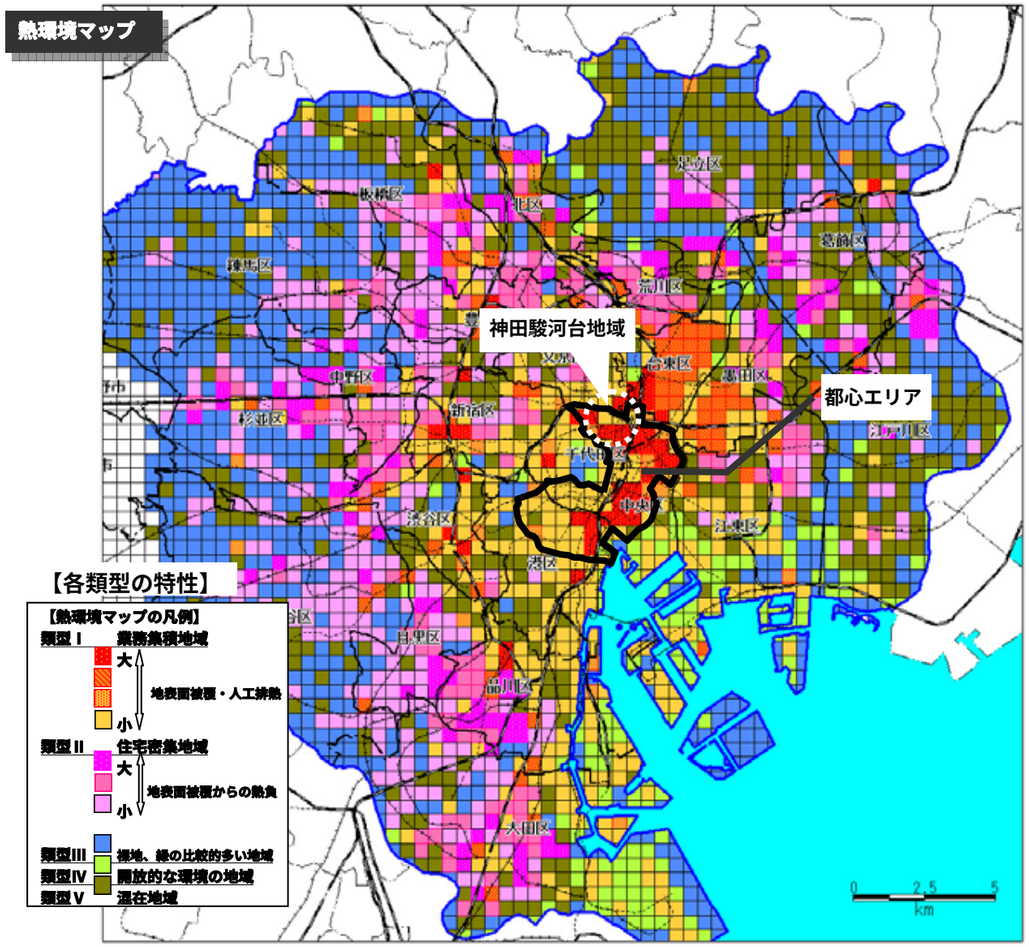
●　現状と問題点　●

①ヒートアイランド対策をはじめとする環境改善の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

◇業務ビル・アスファルト等の人工被覆面からの熱負荷、建物排熱が大きい

◇昼夜ともに気温が高い

◇地球温暖化対策・ヒートアイランド対策モデル地域（国）、ヒートアイランド対策推進エリア（都）に指定されている。



【国】地球温暖化対策・ﾋｰﾄｱｲﾗﾝﾄﾞ対策モデル地域

■都心地域

下水等**未利用エネルギーを活用**した都市廃熱供給処理システム導入、**屋上等緑化**、**保水性舗装**と**散水**等官民を挙げた地球温暖化、ヒートアイランド対策を実施

（平成 17 年 4 月　内閣官房都市再生本部選定）

【都】熱環境マップに基づくヒートアイランド対策

■都心エリア（業務集積地域対策）約 1,600ha

業務ビル・ｽﾌｧﾙﾄ等の人工被覆面からの熱負荷、建物排熱が大きく、昼夜ともに気温が高いエリア

※都市再生緊急整備地域（東京駅・有楽町駅周辺、秋葉原・神田、環状二号線新橋周辺・赤坂・六本木、東京臨海の一部）及び飯田橋-神保町地区、日本橋東地区等

都市再生の一環として、**民間再開発等における対策**の誘導とともに、**保水性舗装**、**壁面緑化**、**校庭芝生化**等を重点的に実施

（平成 17 年 4 月　東京都）

●　地域の環境改善への貢献イメージ　●

■開発・機能更新・基盤整備にあわせた開発事業者による地域の環境改善

◆環境への負荷の低減◆

＜課題＞
ヒートアイランド対策　温室効果ガス排出量削減
省エネルギー・省資源　資源リサイクル

●環境配慮型の建築・開発事業の推進

◇エネルギー使用の合理化

・建築物の熱負荷低減、自然エネルギー利用、省ｴﾈﾙｷﾞｰｼｽﾃﾑ、地域省エネルギー

◇資源の適正利用

・エコマテリアルの活用、フロン抑制設備の活用等、長寿命化対応、雑用水利用

◇環境負荷の少ない工法・機材の活用

◇建設副産物の発生抑制

※東京都建築物環境配慮指針（平成 14 年）

※千代田区環境に配慮したまちづくりのための指針（平成 15 年）

●特に大規模開発事業者が行うもの

◇地域向けエネルギー供給施設の活用

◇バイオマス・ｺｼﾞｪﾈﾚｰｼｮﾝｼｽﾃﾑの導入

◇廃棄物処理施設等の整備

地域の環境改善

◆うるおいある市街地環境形成◆

＜課題＞
みどり　みず　アメニティ　魅力

●緑化等の推進

◇敷地内の地上部、接道部の緑化

◇建築物上の緑化（屋上、壁面、ベランダ等）

◇水面の創出

●保水性舗装による路面温度の低減

◇道路、駐車場、広場等での保水性舗装の活用

●降雨による水害の軽減・防止

◇雨水流出抑制施設の設置

◇透水性舗装の活用

※東京都における自然の保護と回復に関する条例

※千代田区緑化推進要項（平成 10 年）

※千代田区雨水流出抑制施設設置に関する指導要綱（平成６年）

地域の多様な連携・協調・協働

神田駿河台地域の企業、教育・医療機関、自治会、商店会

●環境に配慮した事業活動

●環境活動を通じた企業・大学等の社会貢献

●環境情報・ノウハウ・技術の共有

●学生・NPO・自治会・商店会等の連携・協力

＜千代田区のヒートアイランド緩和対策メニュー＞

◇人工被覆の改善（熱を冷ます）

〔緑地と水辺〕

・緑地や水辺の保全、市街地緑化、建物緑化（街路空間の緑化・屋上緑化）

・開水面の確保（小河川の開渠化等）

〔道路〕

・反射率の改善、保水性の改善、路面の散水

〔施設〕

・壁面、屋根の反射率の改善、建物緑化

◇人工排熱の低減（熱を出さない）

・空調の適正運転、エネルギー消費機器の高効率化

・交通対策の導入(低公害車や交通マネージメント)

・地下鉄排熱の利用

◇都市形態の改善

・建物配置等の改善

(ビル・道路等の配置改善、風の道・水の道の利用)

・土地利用の改善（公園緑地の配置）

（出典：千代田区の緑化とﾋｰﾄｱｲﾗﾝﾄﾞの現状について/平成 15 年度）

＜事例＞ちよだエコ・オフィス町内会

区内の会員企業と千代田区が一緒に取り組むオフィス古紙リサイクルのシステム

◇今まで、ごみとして捨てていた紙を分別回収

◇ごみにするより安いコストで資源として再利用

◇ごみの減量と省資源化

◇企業として環境や社会へ貢献

（出典：オフィス町内会ホームページ）

課題６
防

大規模地震災害、施設・組織・拠点の連携と協力

●　現状と問題点　●

①防災対策・・・

課題７
景

みどり豊かな街路、景観資源

●　現状と問題点　●

①文教のまちらしいみどり豊かな街・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

◇みどりと街並みの風情の連続性が明大通りの東西で遮断されている

◇明大通り、お茶の水仲通りが地域の骨格軸としての魅力に乏しい

②景観資源を活かした、うるおいと風格ある街並み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

◇神田川の空間や歴史的・文化的な資源などが、街並み形成に充分活かされていない

◇歴史的・文化的資源の発掘・演出・ＰＲが不足している

＜神田川＞

＜ニコライ堂＞

＜カザルスホール＞

＜太田姫稲荷神社＞

＜文化学院＞

＜山の上ホテル＞

③街並み形成の阻害要因・・

◇電線類や路上駐車・駐輪が、街並みの遠景や、うるおいある街並みを阻害している

＜景観の阻害要因＞

●電線類

●路上駐車・駐輪

●　街並みのイメージ　●

■風格とうるおいある街並みの形成
通りごとの特性を活かし、バランスのとれた街並みの創出

文教の街らしいゆとりある緑豊かな街路
（とちの木通り・かえで通り・小桜通りなど）

◇文教地区の趣や落ち着きあるファサードの連続
◇街路樹や建物側の緑の連続

【現況】小桜通り

ゆとりと賑わいの街路　（明大通り）

◇風格あるファサードの連続
◇効果的な広場空間と緑の配置

まち歩きを楽しませる街路　（お茶の水仲通り・茗渓通り）

◇ヒューマンスケールの街並みの創出
→地上面（道路）と沿道建物との親密な空間づくり
（建物上部と地上の近しい距離感(20m程度)を維持）

◇賑わいや交流の演出
例）→カフェ、ギャラリー、ステージ、
広場などの半公共的空間の創出
→地域交流活動の実施

日本大学理工学部前

■景観資源を活かした街並み（神田川・歴史文化資源）

◇神田川を活かした街並みの創出
◇歴史的・文化的資源を活かした街並みの形成

課題８
住

多様な居住、生活の利便性

●　現状と問題点　●

①居住・・・